



▲出品料理を試食する来場者の皆さん。

## 自慢の料理で賑やかに

6回目となる宇賀荘地区の料理コンテストが12月9日、宇賀荘交流センターで開催されました。得意の料理を持ち寄り、試食しながらみんなで楽しく過ごす同センターが企画。肉・魚料理をはじめ、地元食材を使ったもの、デザート、お茶請けなど、27品が出品されました。

参加者のひとり原美紀子さん（宇賀荘町）は「初めての味があり、とても参考になりました。作り方も聞くことができたので、料理の良い勉強になりました」と感想を話していました。

※優秀賞の作品は「食育レシピ」のコーナーで紹介しています。



## 気軽に音楽に触れる音楽会

音楽の試食会と銘打った「アルテピア・プレミアムカフェ」が12月19日、総合文化ホール「アルテピア」で開催されました。クラシック音楽を身近に感じてほしいと企画されたもので、入場は無料。出演するのは県内在住のチェロやクラリネット、ピアノなどの演奏家の皆さんです。2回目の開催となったこの日は、平日の夜にも関わらず仕事帰りの



まちの話題や出来事を紹介します



認定こども園井尻のゆり・ばら・さくら組の皆さん。背後にあるクリスマスツリーは滑り台を利用。手づくりの飾りで素敵なツリーになっていました（12月25日）

今月の一枚



◀ロビーで生演奏を聞きながら歓談する来場者の皆さん。

人など約170人が訪れました。

この会の最大の特徴は約30分間の長い休憩時間です。ロビーにはたくさんのテーブルとワンコインのケーキセットが用意。出演者のチェロリストがロビーで奏でるBGMの中で、来場者は会話や喫茶を楽しんでいました。

主催者である安来音楽協会の角久夫会長は、「休憩時間にはロビーで井戸端会議のような歓談をしていただきたいと思っています。お客さん同士のネットワークが広がり、さらには安来の音楽文化が活発になるのを期待してこの催しを企画しています」と話していました。



▲週3回の内、1回は部員が主体的に練習しています。練習前に宿題を終わらせるのがルールです。

## 赤江 Jr. ブラスバンドが表彰

市内の小学生16人で活動する「赤江 Jr. ブラスバンド」が12月27日、県教育委員会教育長から優良少年団体表彰を受けました。この表彰は、継続的な活動が他団体の模範となり、明るく住みよい地域づくりに大きく貢献している少年団体に贈られるものです。

同ブラスバンドは赤江交流センターを拠点に週3回練習。市内の行事や福祉施設などで年間約20回も演奏を披露し、地域を元気にしています。

## 「森の見た夢」を自由に描く

森林や自然の大切さなどを知ってもらおうと開催された「森の見た夢コンテスト」の表彰式が12月16日に安来節演芸館で行われました。

NPO 法人青少年サポートの会が主催するこのコンテストは「森の見た夢」を題材に安来産間伐材の板に自由に絵などを描くもの。今年は幼児の部から大人の部まで全253点が出品、審査されました。

幼児の部で最優秀賞に選ばれた田口心太さんは「がんばって描いてよかった」と話していました。



▲藤原常義理事長から表彰状が手渡されました。

## 江戸時代から続く年末行事

お祭に山姥<sup>やまんば</sup>が出現。新年を迎える市<sup>いち</sup>として江戸時代から続く「母里市やまんば祭」が12月25日、母里交流センター周辺で開催されました。訪れた人は、正月飾りや食材などを買い求めていました。

祭の時間中には時折、気前のよい山姥が登場。天保年間、母里藩の奉行が山姥に扮した老女にお金を配らせ、市が賑わうようにしたことに由来します。現代の山姥は、来場者に福引券やキャンデーなどを配っていました。

▼山姥が登場すると人だかりができます。



▲中学生はクイズや実演を交えて説明していました。

## 災害に備えた研修会

近年相次ぐ台風や豪雨、地震などの自然災害に備え、防災の知識、技術を身につけようと12月16日に伯太地区防災研修会が開催されました。会場の伯太中央交流センターには地域住民など約200人が集まり、防災学習や災害派遣の報告を聞きました。

防災学習では、伯太中学校3年生が防災面から見た伯太地区の現状や住民ができることなどを発表。生徒たちは自分らが作成した防災パンフレットを使いながら説明し、防災力向上を呼び掛けました。

岩田伊織<sup>いおり</sup>さんは「地域の人に伝わりやすいように話し方などを工夫しました」と話していました。